

取扱説明書

Memograph M RSG45

高機能データマネージャ
バッチソフトウェアオプション
バッチ管理に関する補足説明書



目次

1	機能の概要	4
1.1	ファームウェアの履歴	4
2	機器設定、アプリケーション設定	5
2.1	一般的なプログラミングガイドライン	5
2.2	エキスパート → アプリケーション → バッ チモード	5
2.3	エキスパート → 入力 → デジタル入力	8
2.4	エキスパート → アプリケーション → 信号 グループ	9
2.5	運転中の使用	10
2.5.1	バッチメニュー	10
2.5.2	バッチの開始/終了	11
2.5.3	Field Data Manager (FDM) PC ソフ トウェアでのバッチの表示および 印刷	12
2.5.4	バッチ終了時の機器の自動読み 出し	12
2.5.5	バーコードリーダーを使用した 入力	13
3	エラーメッセージおよびトラブルシ ューティング	14
4	技術データ	14
5	付録	15

1 機能の概要

注記

本書には、特別なソフトウェアオプションに関する追加情報が含まれます。
この補足説明書は、取扱説明書の代替となる資料ではありません。
▶ 詳細情報については、取扱説明書および関連資料を参照してください。

すべての機器バージョンの資料は、以下から入手できます。
■ インターネット：www.endress.com/deviceviewer
■ スマートフォン/タブレット：Endress+Hauser Operations アプリ

バッチ機能の定義：

バッチ生産は、同じ条件でひとまとまりの製品単位を生産、製造、または梱包することを示します。通常、このような製品単位には一意のロット番号（バッチ番号）が割り当てられ、多くの場合、この番号がこのロットの各製品にも明記されます。

バッチは、機器の固定のデータ集計に割り当てられます（バッチ 1 → 集計 1、バッチ 2 → 集計 2 など）。

注意：4 つのバッチが並行して稼働中の場合、オペレータはそれ以上の集計（例：日毎の集計）を実行することはできません。積算計のみが常時測定されます。

機器では、外部のキーボード、バーコードリーダー、コントロール入力（デジタル入力）、またはリモート操作（フィールドバス/OPC）を介して、バッチを手動で開始/停止できます。

バッチ終了時に、最小/最大/平均値および量を示すバッチレポート（データ集計）が作成されます。これは自動的に印刷することもできます。

 バッチソフトウェアには、演算パッケージも含まれます。

 **FDA 21 CFR Part 11 遵守に関する以下の内容は、ユーザーの責任となります。**

- 不正確な開始/停止時間を入力した場合、不正確なデータログが生成されます。
- 不正確なバッチ情報を入力した場合またはバッチ情報を入力しなかった場合、不正確なデータログが生成されます。
- 権限を与えられた担当者（ユーザー管理により管理されます）のみがバッチを操作できます。

1.1 ファームウェアの履歴

本機器に関するソフトウェアの履歴：

ソフトウェアバージョン： バージョン/日付	ソフトウェアの変更点	FDM 分析ソフトウェアのバージョン	OPC サーバーのバージョン	取扱説明書
V02.00.00 / 2015 年 8 月	初版ソフトウェア	V1.3.0 以降	V5.00.03 以降	BA01411R/09/EN /01.15
V2.04.06 / 2022 年 10 月	バグ修正	V1.6.3 以降	V5.00.07 以降	BA01411R/09/EN /02.22-00

2 機器設定、アプリケーション設定

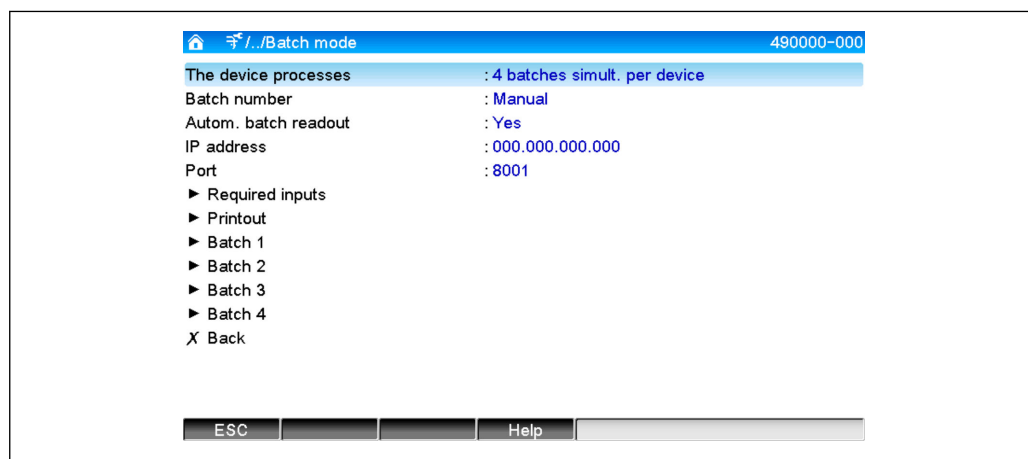
2.1 一般的なプログラミングガイドライン

1. 取扱説明書 BA01338R の説明に従って、機器を設置して設定します。安全上の注意事項をすべて遵守してください。
2. バッチモードに必要な追加設定を行います（次のセクションを参照）。
3. 表示部を設定します（例：表示モードの選択）。取扱説明書 BA01338R の第 11 章を参照してください。

2.2 エキスパート → アプリケーション → バッチモード

バッチモードに必要な設定。

- i** 選択した機能に応じて、毎回、必要なパラメータのみが確認/設定されるように、機器のユーザーインターフェースが自動的に調整されます。



A0051337

図 1 エキスパート → アプリケーション → バッチモード

「アプリケーション → バッチモード」メニュー項目	設定可能パラメータ (太字は初期設定)	直接アクセスコード
機器プロセス	本機器では最大 4 つのバッチを同時に記録できます。機器で同時に処理するバッチ数を設定します。 選択リスト： オフ 、機器 1 台につき 1 バッチ、x バッチシミュレーション/機器	490000/000
バッチ番号	バッチ番号の生成方法を設定します。 マニュアル ：バッチ番号として任意のテキストを入力できます。 自動的に増加：バッチ終了後にバッチ番号が自動的に 1 ずつ増加します。	490001/000
バッチ自動読み込み	この機能を有効にすると、バッチの終了後すぐに PC ソフトウェアにより自動的にデータが読み出されて印刷されます。 注意 ：機器がイーサネットを介して接続されており、 Field Data Manager (FDM) 評価ソフトウェアで自動読み出しシステムが起動している場合にのみ使用できます。 選択リスト： いいえ 、はい	490002/000
IP アドレス	ここに読み取り側 PC の IP アドレスを入力します。IP アドレスが不明な場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。 注意 ：DNS 名も使用できます。 初期設定： 000.000.000.000	490003/000
ポート	この通信ポートを介して、読み取り側 PC への接続を確立します。 注意 ：お使いのネットワークをファイアウォールで保護している場合、必要に応じてこのポートを有効にしてください。この場合、ネットワーク管理者に確認して下さい。 初期設定： 8001	490004/000

「アプリケーション→バッチモード」メニュー項目	設定可能パラメータ (太字は初期設定)	直接アクセスコード
「入力が必要。」サブメニュー	バッチを開始するために入力が必要なデータフィールドを指定します。選択した必要なフィールドを入力しないと、バッチを開始できません。 🏠 /./Required inputs490005-000 Identifier: No Batch name: No Batch number: No Preset counter: No X Back ESC Help A0051338 🔍 2 エキスパート → アプリケーション → バッチモード、「入力が必要。」サブメニュー	
識別名	バッチを開始するためにバッチ識別名の入力が必要かどうかを指定します。 選択リスト: いいえ 、はい	490005/000
バッチ名	バッチを開始するためにバッチ名の入力が必要かどうかを指定します。 選択リスト: いいえ 、はい	490006/000
バッチ番号	バッチを開始するためにバッチ番号の入力が必要かどうかを指定します。 選択リスト: いいえ 、はい	490007/000
プリセットカウンター	バッチを開始するためにプリセットカウンターの入力が必要かどうかを指定します。 いいえ を選択した場合、前回のプリセットカウンターが再利用されます。 注意: プリセットカウンターに従ってバッチが終了する場合にのみ関係します。 選択リスト: いいえ 、はい	490008/000
印刷サブメニュー	バッチ印刷の設定 (機器にプリンタが接続されている場合にのみ関係します)。 注意: アクティブなバッチに割り当てられているチャンネルのみが印刷されます。つまり、アプリケーション → 信号グループ → グループx → チャンネル/グループのバッチ割り当てで、バッチ x または全バッチを割り当てが設定されているチャンネルです。他のすべてのチャンネルは無効です。 注意: バッチ印刷は、エキスパート → アプリケーション → 信号評価 → 自動印刷で有効にできます。 🏠 /./PrintoutM Printout: Field 1: Operator Printout: Field 2: QA responsible Printout: Field 3: Date/time Number of copies: 1 X Back ESC Help A0051339 🔍 3 エキスパート → アプリケーション → バッチモード、印刷サブメニュー	

「アプリケーション→バッチモード」メニュー項目	設定可能パラメータ (太字は初期設定)		直接アクセスコード
	印刷：フィールド 1	バッチレポートの 3 つのフィールドには、レポートの印刷後にユーザーが個別に記入できます。 ここでは、このフィールドの名前を設定します。 テキスト入力：最大 22 文字 初期設定： オペレーター	490010/000
	印刷：フィールド 2	バッチレポートの 3 つのフィールドには、レポートの印刷後にユーザーが個別に記入できます。 ここでは、このフィールドの名前を設定します。 テキスト入力：最大 22 文字 初期設定： QA 担当者	490011/000
	印刷：フィールド 3	バッチレポートの 3 つのフィールドには、レポートの印刷後にユーザーが個別に記入できます。 ここでは、このフィールドの名前を設定します。 テキスト入力：最大 22 文字 初期設定： 日付/時刻	490012/000
	印刷部数	印刷部数を設定します。 選択リスト： 1 、2、3	490013/000
バッチ 1～4 サブメニュー	バッチ固有の設定。 🏠 🔍 /../Batch 1 490014-000 Description : Batch 1 Start/stop : Preset counter Control input : Switched off Preset counter : Switched off Max. preset counter : 0 Switches relay : Not used X Back ESC Help A0051340 📖 4 エキスパート→アプリケーション→バッチモード、バッチ x サブメニュー		
説明	ここでは、各バッチに関する独自の説明を入力します（機器で複数のバッチを並行して実行する場合に使用を推奨）。データを入力しなかった場合、機器で説明が自動的に生成されます。テキスト入力：最大 16 文字	490014/000 490014/001 490014/002 490014/003	
開始/停止	バッチを開始/終了する方法を指定します。 /制御入力：バッチを外部のデジタル制御入力により開始/終了します（機能：バッチ x の開始/停止）。 DIN レールの場合: Web サーバ/フィールドバス：機器の操作、バーコードリーダーの使用、またはリモート操作（PC ソフトウェア、フィールドバス）により、バッチを開始/終了できます。 プリセットカウンター：機器の操作、バーコードリーダーの使用、またはコントロール入力により、バッチを開始できます。カウンタ値 ≥ デフォルト値の場合、バッチは終了します。	490015/000 490015/001 490015/002 490015/003	
コントロール入力 開始/停止 - プリセットカウンターの 場合のみ	バッチを開始するコントロール入力を選択します。または、現場での操作でバッチを開始することもできます。 注意： この入力を使用して、バッチを終了することはできません。割り当てられた入力は、自動的に事前設定されます。 選択リスト： オフ 、デジタル入力 x	490017/000 490017/001 490017/002 490017/003	

「アプリケーション⇒バッチモード」メニュー項目	設定可能パラメータ (太字は初期設定)		直接アクセスコード
	コントロール入力 開始/停止 - /制御入力の場合のみ	バッチを開始/終了するコントロール入力を選択します。 注意 ：割り当てられた入力は、自動的に事前設定されます。バッチの実行中は、この入力をアクティブにしておく必要があります。バッチの最短実行時間は1秒です。 選択リスト： オフ 、デジタル入力 x	490017/000 490017/001 490017/002 490017/003
	プリセットカウンター 開始/停止 - プリセットカウンターの 場合のみ	プリセットカウンターの量のプリセットに達すると、バッチを終了するチャンネルを選択します。 注意 ：割り当てられた入力は、自動的に事前設定されます。 選択リスト： オフ 、アナログ信号入力 x、デジタル入力 x、演算 x	490016/000 490016/001 490016/002 490016/003
	最大プリセットカウンタ 開始/停止 - プリセットカウンターの 場合のみ	プリセットカウンタ値として入力できる最大値を設定します。これにより、間違っ て大きな値が入力されることを防止 できます。 ユーザー入力：最大8文字	490021/000 490021/001 490021/002 490021/003
	デフォルトバッチ数 バッチ番号 - 自動の場合のみ	コントロール入力によりバッチ番号がリセットされる場合に、バッチ番号に設定するデフォルト値を指定します。 ユーザー入力：最大8文字	490019/000 490019/001 490019/002 490019/003
	バッチ数リセット バッチ番号 - 自動の場合のみ	バッチ番号をそのデフォルト値にリセットするデジタル入力を選択します。 注意 ：割り当てられた入力は、自動的に事前設定されます。 選択リスト： オフ 、デジタル入力 x	490020/000 490020/001 490020/002 490020/003
	リレー作動	割り当てられたリレーは、バッチを実行している間は切り替わります。 選択リスト： 未使用 、リレー x	490018/000 490018/001 490018/002 490018/003

2.3 エキスパート → 入力 → デジタル入力

バッチモード用のデジタル入力の設定。

 ここでは、バッチモードに関連する設定についてのみ説明します。その他のすべてのデジタル入力機能については、取扱説明書を参照してください。

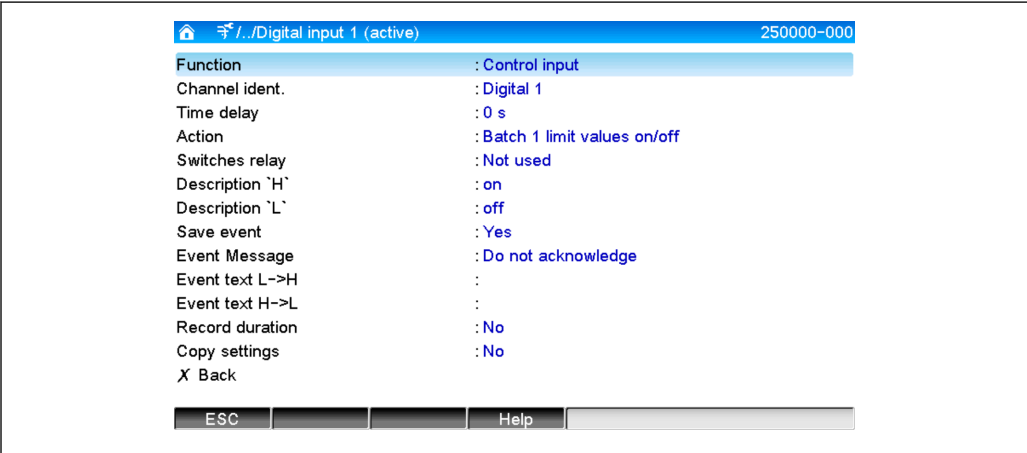


図 5 エキスパート → 入力 → デジタル入力 → デジタル入力 x

「入力 → デジタル入力」メニュー項目	設定可能パラメータ（太字は初期設定）	直接アクセスコード
機能	必要な機能を選択します。デジタル入力は High でアクティブになります。つまり、 High 入力によって指定された機能が実行されます。Low = -3...+5 V、High = +12...+30 V、以下の機能を使用できます。 オフ ：デジタル入力は非アクティブになります。 コントロール入力：デジタル入力を使用して、バッチモードの各種制御機能を実行できます。	250000/000～ 250000/013
チャンネルの名称（英数字のみ）	この入力の機能の説明（例： バッチ 1 開始 ） ユーザー入力：最大 16 文字初期設定： デジタル x	250001/000～ 250001/013
アクション	バッチモード用のコントロール入力の機能を設定します。 開始/終了 バッチ x ：外部集計を開始/停止します（集計は信号が High の場合にのみ実行されます）。画像表示用の測定値は継続して取得されます。この機能により、バッチも開始/停止します。 バッチ x のリセット：自動生成されたバッチ番号を 0 にリセットします（Low → High に変更）。 バッチ x リミット値 オン/オフ：バッチのリミット値のオン/オフを切り替えます。	250003/000～ 250003/013
設定のコピー	実際のチャンネルから指定チャンネルへのコピー設定。対象となるチャンネルの名称の末尾 2 文字が、そのチャンネル番号に置き換えられます。	250200/000～ 250200/013

2.4 エキスパート → アプリケーション → 信号グループ

バッチモード用の信号グループの設定。

 ここでは、バッチモードに関連する設定についてのみ説明します。その他のすべてのデータ集計機能については、取扱説明書を参照してください。

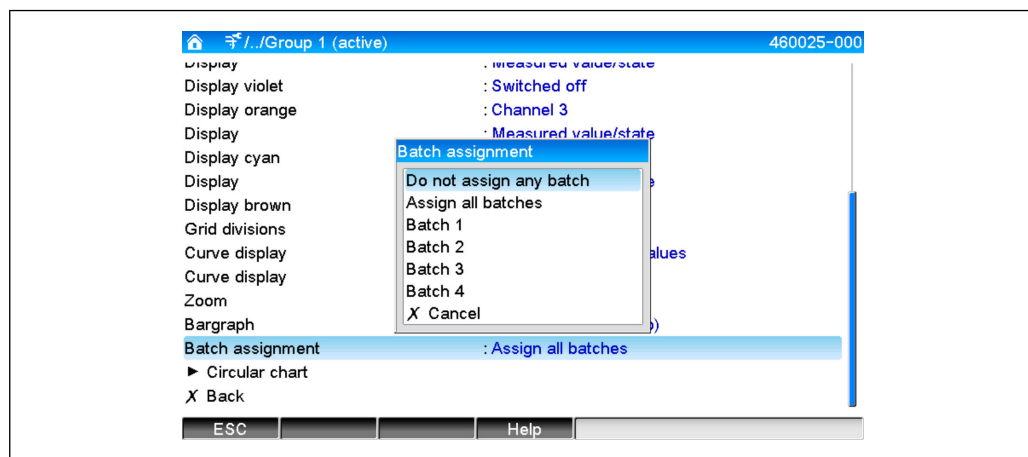


図 6 エキスパート → アプリケーション → 信号グループ → グループ x

A0051342

「アプリケーション→信号グループ」メニュー項目	設定可能パラメータ（太字は初期設定）	直接アクセスコード
チャンネル/グループのバッチ割り当て	グループを割り当てるバッチを設定をします。 注意： ■ チャンネルは複数のバッチ/グループに割り当てることができます。 ■ バッチ印刷でのみ有効です。 選択リスト： バッチ割り当てを行わない 、全バッチを割り当て、バッチ x	460025/000～ 460025/009
グループを保存 (チャンネル/グループのバッチ割り当て - バッチ x の場合のみ)	グループを常に保存するか、または移送したバッチが作動している場合のみ保存するかを指定します。 選択リスト：バッチが作動の場合のみ、 常に	460026/000～ 460026/009

i 変更した設定は、パラメータ設定後に表示モード（測定値表示）に戻るまで適用されません。操作メニューを終了するには、メニュー項目**元に戻る**を繰り返し選択します。この時点までは、機器の運転には以前のデータが使用されます。

2.5 運転中の使用

2.5.1 バッチメニュー

運転中に、バッチごとに個別のシンボルが測定値表示部の右上に表示されます。緑色のシンボルは、バッチが開始したことを示します。赤色のシンボルは、バッチが停止したことを示します。

i アクティブなバッチに割り当てられているチャンネルのみが表示されます。つまり、**アプリケーション→信号グループ→グループ x→チャンネル/グループのバッチ割り当て**で、バッチ x または**全バッチを割り当て**が設定されているチャンネルです。他のすべてのチャンネルは無効です。

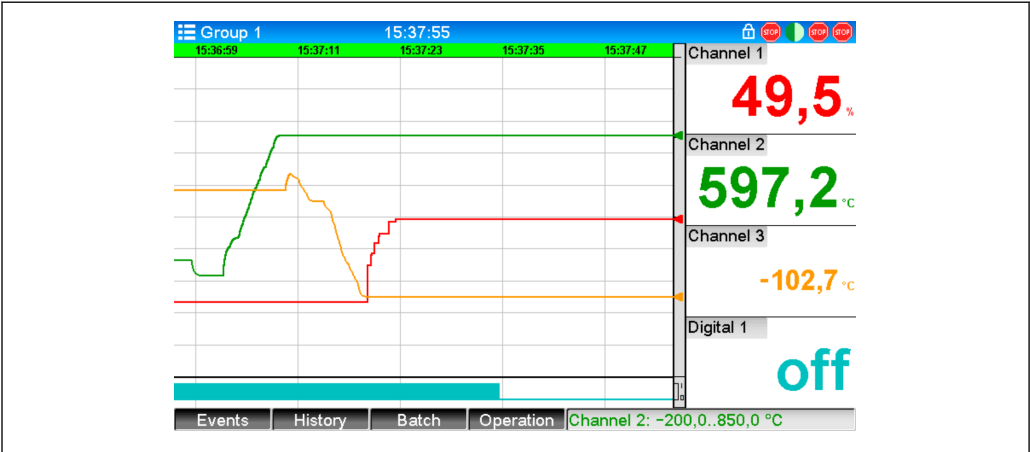
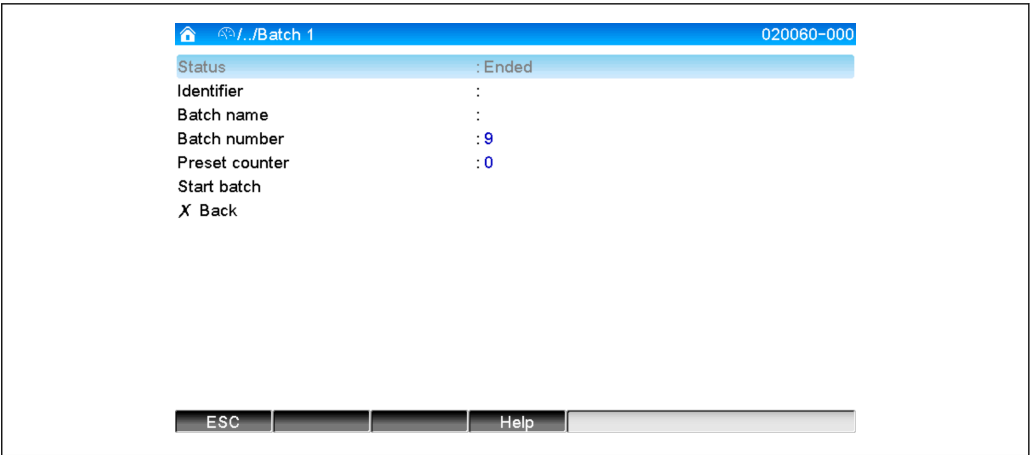


図 7 バッチメニュー

ソフトキー 3 を押すか、**メインメニュー→操作**を使用して、**バッチメニュー**を呼び出します。



A0051344

図 8 バッチメニュー

このメニューは、バッチ情報の入力やバッチの管理に使用します。

「バッチ → バッチ x」メニュー項目	説明
状況	バッチの現在の状況。
識別名	バッチを識別するためのテキストフィールド。テキスト入力：最大 30 文字
バッチ名	バッチを識別するためのテキストフィールド。テキスト入力：最大 30 文字
バッチ番号	バッチ番号を入力します。テキスト入力：最大 30 文字 オプションとして機器で生成することもできます。自動生成されるバッチ番号は最大 9 桁の数字であり、先行符号はありません。 注意： この機能は、 エキスパート → アプリケーション → バッチモード → バッチ番号 の設定に応じて異なります。
プリセットカウンタ	ここでは、プリセットカウンターのデフォルト値を設定します。ユーザー入力：最大 8 文字カウンタ値 ≥ デフォルト値の場合、バッチは自動的に終了します。
開始時刻	バッチが開始されると、開始日付と開始時刻がここに表示されます。
開始：	ユーザー管理が有効な場合、バッチを開始したユーザー名がここに表示されます。
バッチ開始またはバッチ終了。	ここでバッチを開始または終了できます。 注意： ユーザー管理が有効な場合、ユーザーがバッチを開始/終了するには、ログインする必要があります。

2.5.2 バッチの開始/終了

以下を使用して、バッチを開始/終了します。

- コントロール入力（バッチごとに個別のコントロール入力）
- 機器の操作（ソフトキー 3 を押すか、または**メインメニュー → 操作 → バッチ**を使用）
- プリセットカウンタ
- リモートアクセス（OPC サーバー）
- Profibus DP、Modbus、EtherNet/IP、または PROFINET
- バーコードリーダー

バッチの終了時に集計が保存されます。この集計は、**メインメニュー → 操作 → データ集計 → バッチ x**に表示されます。

注意：

- バッチの状況（開始または終了）は、停電後も保持されます。
- 2 つの同じバッチの停止と開始の間には、200 ms 以上の時間間隔が必要です。
- バッチの最短実行時間は 1 秒です。これよりも短いバッチは記録されません。
- 新しいバッチは、前のバッチが終了するまで開始できません。
- バッチの開始と終了はイベントログに記録されます。

2.5.3 Field Data Manager (FDM) PC ソフトウェアでのバッチの表示および印刷

 これらの機能を実行するには、最初に PC ソフトウェアをインストールする必要があります。PC ソフトウェアの DVD に収録されている説明書や情報を参照してください。

PC ソフトウェアによるバッチの読み出し手順：

1. **Readout data (データの読み出し) → Mass storage (大容量記憶装置)** または **Readout data (データの読み出し) → Online connection (オンライン接続)** 機能を開始します。順を追った段階的なナビゲーションにより、容易に操作できます。
2. その後の数ステップで、データベースに機器が作成され、データが読み出されます。

PC ソフトウェアによるバッチの表示および印刷手順：

1. **Visualization (表示) → New (新規)** 機能を開始します。順を追った段階的なナビゲーションが開きます。その後の数ステップで、チャンネルとバッチを表示する機器を選択する必要があります。
2. これで曲線、レポート、値、イベントが表示されるようになり、印刷アイコンをクリックすることでこれを印刷できます。
3. **Close (閉じる)** を選択すると、表示を終了するか、またはテンプレートとして保存できます。

 この機能の詳細については、統合型のオンラインヘルプおよび PC ソフトウェアの DVD に収録されているマニュアルを参照してください。

2.5.4 バッチ終了時の機器の自動読み出し

 この機能は、機器がイーサネット経由で接続されている場合にのみ使用できます。ファイアウォールのポート **8001** を有効にする必要があります。

バッチ終了時に機器を自動的に読み出すには、以下の設定を行う必要があります。

1. **機器の操作：**
メインメニューの **エキスパート → アプリケーション → バッチモード** で、**バッチ自動読み込み** をはいに設定します。IP アドレスで、PC ソフトウェアをインストールした PC の IP アドレスを設定します。
2. **PC ソフトウェアの操作：**
Data management (データ管理) → Automatic (自動) 機能を開始します。順を追った段階的なナビゲーションが開きます。
3. ステップ 1：**Automatic information (自動化情報) → Automatic new/edit (自動化の新規作成/編集)** および **Select task: (タスクの選択：) → Read out device (機器の読み出し)** を選択します。
4. ステップ 2：適切な機器を選択します。
5. ステップ 3：**Read out job (ジョブの読み出し) → Active (アクティブ)** および **Interval: Device (間隔：機器)** を選択します。**Additional batch triggered (追加バッチ作動)** は、バッチ終了後に選択した間隔（例：日毎）で、追加処理として機器を自動的に読み出す機能です。
6. **Save (保存)** を選択して自動機能を保存し、有効にします。
7. 自動機能は、**Extras (その他) → Settings (設定) → Automatic (自動)** で停止/再開できます。

 この機能の詳細については、統合型のオンラインヘルプおよび PC ソフトウェアの DVD に収録されているマニュアルを参照してください。

2.5.5 バーコードリーダーを使用した入力

バッチ情報は、バーコードリーダーを使用して以下の2つの方法で入力できます。

バッチメニューの使用

バーコードリーダーを使用して、バッチ情報（識別名、バッチ名、バッチ番号）を入力できます。ただし、**バッチメニュー**を使用して、関連する入力ダイアログを手動で呼び出す必要があります。

バーコードとしてコマンドシーケンスの使用：

1. ステップ：

関連するバーコード（= コマンドシーケンス）を読み込みます（バッチ 1～4 のコマンドシーケンスのバーコードについては、付録を参照）。

2. 関連するバッチの実際のデータを読み込みます。

3. 機器では、データが読み込まれたときにメッセージが 30 秒間出力されます。

付録のバーコードの説明：

バーコード番号	コード	機能、説明[付録 7.4.1]
①	START BATCH x	バッチ開始：このバーコードをスキャンすると、バッチが開始します。 注意： ユーザー管理が有効な場合、ユーザーがバッチを開始するには、ログインする必要があります。
②	STOP BATCH x	バッチ終了：このバーコードをスキャンすると、バッチが終了します。 注意： ユーザー管理が有効な場合、ユーザーがバッチを終了するには、ログインする必要があります。
③	BATCH x ID	識別名：このバーコードのスキャン後に、バッチを識別する識別名をスキャンできます。最大 30 文字
④	BATCH x NAME	バッチ名：このバーコードのスキャン後に、バッチを識別するバッチ名をスキャンできます。最大 30 文字
⑤	BATCH x NO	バッチ番号：このバーコードのスキャン後に、バッチ番号をスキャンできます。最大 30 文字オプションとして機器で生成することもできます。自動生成されるバッチ番号は最大 9 桁の数字であり、先行符号はありません。 注意： この機能は、 エキスパート → アプリケーション → バッチモード → バッチ番号 の設定に応じて異なります。
⑥	BATCH x ENTER ALL	このバーコードのスキャン後に、識別名、バッチ名、バッチ番号を順にスキャンできます。したがって、バーコード 3、4、5 を個別にスキャンする必要はありません。
⑦	BATCH x DEFAULT	プリセットカウンタ：このバーコードのスキャン後に、デフォルト値をスキャンできます。最大 8 文字カウンタ値 ≥ デフォルト値の場合、バッチは自動的に終了します。
⑧	CANCEL	このバーコードをスキャンすると、バーコード入力がキャンセルされます。 注意： バッチはキャンセルされません。

⚠ 注意

フェールセーフモード：

- ▶ コマンドシーケンスの読み込み後、x 秒以内に関連データが読み込まれなかった場合（x はメインメニューの**エキスパート → システム → バーコード読み取り → タイムアウト処理**で設定可能、10～180 秒、デフォルト値 = 30 秒）、そのプロセスはキャンセルされます（メッセージは表示されません）。
- ▶ コマンドシーケンスを複数回連続して読み込むことが可能です。最後に読み込まれたコマンドシーケンスが常に有効になります。

3 エラーメッセージおよびトラブルシューティング

本機器は、障害あるいは不正な入力を検知すると、画面上に簡単なテキスト文を用いて操作者に知らせます。ディスプレイ操作（測定値表示）中に、画面の右上隅にエラーコードが表示されます。

ナビゲータおよび前面インターフェース付きバージョン：

また、赤色 LED によりエラーが通知され、警告発生時またはメンテナンスが必要な場合は赤色 LED が点滅します。

 エラーメッセージおよびトラブルシューティングの詳細については、取扱説明書の**診断およびトラブルシューティング**セクションを参照してください。

4 技術データ

 本機器オプションには、取扱説明書の技術データが適用されます。

5 付録

バッチ 1 + 2 のコマンドシーケンス (コード 128) :

①	 \$\$\$_BATCH_1_START	①	 \$\$\$_BATCH_2_START
②	 \$\$\$_BATCH_1_STOP	②	 \$\$\$_BATCH_2_STOP
③	 \$\$\$_BATCH_1_ID	③	 \$\$\$_BATCH_2_ID
④	 \$\$\$_BATCH_1_NAME	④	 \$\$\$_BATCH_2_NAME
⑤	 \$\$\$_BATCH_1_NO	⑤	 \$\$\$_BATCH_2_NO
⑥	 \$\$\$_BATCH_1_ENTER_ALL	⑥	 \$\$\$_BATCH_2_ENTER_ALL
⑦	 \$\$\$_BATCH_1_DEFAULT	⑦	 \$\$\$_BATCH_2_DEFAULT
⑧	 \$\$\$_CANCEL	⑧	 \$\$\$_CANCEL

A0051464

バッチ 3 + 4 のコマンドシーケンス (コード 128) :

①	 \$\$\$_BATCH_3_START	①	 \$\$\$_BATCH_4_START
②	 \$\$\$_BATCH_3_STOP	②	 \$\$\$_BATCH_4_STOP
③	 \$\$\$_BATCH_3_ID	③	 \$\$\$_BATCH_4_ID
④	 \$\$\$_BATCH_3_NAME	④	 \$\$\$_BATCH_4_NAME
⑤	 \$\$\$_BATCH_3_NO	⑤	 \$\$\$_BATCH_4_NO
⑥	 \$\$\$_BATCH_3_ENTER_ALL	⑥	 \$\$\$_BATCH_4_ENTER_ALL
⑦	 \$\$\$_BATCH_3_DEFAULT	⑦	 \$\$\$_BATCH_4_DEFAULT
⑧	 \$\$\$_CANCEL	⑧	 \$\$\$_CANCEL

A0051465



www.addresses.endress.com
